

# ケアセンター成瀬「楽習」日和

(くもん学習療法)

2016年 6月号 vol.5

6月に入り、梅雨本番を迎えています。つい先日まで、送迎車の中からバラの花が見事に咲いているのを眺めていました。今、バラの花が紫陽花に代わり、雨に濡れて輝いています。紫陽花の花もいろいろありますが、100 を超える種類があるそうです。花が寄り添って咲いていることから日本では愛を表すといわれ、青色は「忍耐強い愛」という花言葉がついています。何種類の花に出会えるか楽しみです。

私は、傘とレインブーツを新調しました。子どもの頃は「レインブーツ」なんて格好の良い呼び方ではなく「長靴」でした。長靴でわざと水たまりに入り、ピチャピチャと遊んでいたことを思い出します。

窓の外を眺めながら、あれこれと雨の日の出来事を思い出してみたいかがでしょう。窓ガラスをたたく雨の音も、ピアノの旋律のように聞こえてくるかもしれません。

ケアセンターでは4月～6月にかけて新しい学習仲間が 7 名増えました。楽しみの時間を増やし、自宅での生活にもハリが持てるよう継続して頂けたらうれしいです。私ども実践士(支援者)も研修や勉強会に参加し、皆様から「ケアセンターにはしっかりした実践士がいるから安心」と言ってもらえるようがんばっています。

テイサービス 久保田



## お知らせ

☆ケアセンター成瀬は実践モデル施設になっています。

2016年5月、委嘱式に参加してきました。東京では8施設が登録されています。

学習療法導入を検討されている施設の方々の見学を受け入れています。

☆「学習療法」「脳健康教室」が「保険外サービス活用ガイドブック」に掲載されました。

現在、医療・介護・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を進めていくために、保険外のサービスが不可欠とされています。

2015年度、厚生労働省、農林水産省、経済産業省は連携して、保険外サービスの優良事例を集め、活用促進を図るため『地域包括ケアシステム構築に向けた公的介護保険外サービスの参考事例集』の作成を行いました。このガイドブックには39の事例が掲載され、「学習療法」「脳健康教室」が、公的保険外サービスの優良事例の一つとして紹介されました。〈学習療法センターだよりから〉

2016年3月末

学習療法 学習者数 11,777 人 会場数 1,608 ケ所

## ○事例をご紹介します

### あるスタッフの気づき

学習者S様：85歳女性

地域の集まりや趣味の会など熱心に参加されていました。特に書道がお好きで腕前はかなりのものでした。庭仕事をしているときに転倒、足を骨折され、自由に動けないことから意欲がなくなり、寝て過ごすことが多くなりました。

テイサービスもお休みがち、お好きな書道もやりたくない。書道のお仲間と話をすることもなくなり、一人でぼんやりと過ごされていました。スタッフが話しかけても「はい、そうね、いや」などと短く答えるばかりでした。

### 学習療法をスタート(家族からの依頼)

あまり気乗りせず、仕方なく参加しているご様子。

### 梅雨の時期、学習療法未導入施設向け見学会の日

スタッフにとっては初めてのSさんの学習、テイサービス中もあまり言葉を交わすこともなかったため、どんな学習ができるのか不安でいっぱい。

教材は梅雨の季節、教材の絵を見ながら

「ああ雨降りね」

「Sさん、こんな歌ご存じですか、♪あめあめふれふれ～」

Sさんは頷いて窓の外をながめていました、そして歌の続きを最期まで歌って下さいました。お子さんが小さい頃、傘と長靴を持って迎えに行った、お子さんが傘をささずに雨の中を飛び回っていたことなど次々と話されます。

「雨の歌まだありますか」

別の歌(雨降りお月さん)を披露されました。

「よくご存じですね」

「歌は大好き、子どもによく歌ってあげたのよ」



思いがけずいろいろなお話をうかがうこと出来ました。今まで知らなかったSさんの一面を見ることが出来たような気がしました。と同時にSさんを普段から深く知ろうとしなかったことを反省、積極的にSさんに声をかけるようにしました。Sさんは少しずつ笑顔が戻り、書道にも短時間ですが参加されるようになりました。もちろん学習は継続されました。

学習を見学された方々からは、学習者様が小さな声だが歌っている、スタッフの問いかけに笑顔で答えている、その控えめな笑顔が素敵でした。とのコメントをいただきました。

小さな発見が学習者様の生活を変えられると改めて実感しました。

『学習は脳トレではありません、

一緒に過ごす 時を大切にしています』

